

匝瑳市商工会女性部 「まちづくり座談会」 概要

テーマ： 「シニアが楽しく集えるやさしくふれあう街づくり」

- 1 日 時 平成26年5月8日（木） 18時50分～19時50分
- 2 場 所 商工会館
- 3 参加者 商工会女性部48人
- 4 市職員 太田市長 秘書課長 企画課長 総務課長 財政課長
産業振興課長 福祉課長 高齢者支援課長 生涯学習課長
- 5 概 要
 - (1) 座談会趣旨説明
 - (2) 開会
 - (3) 市長あいさつ
 - (4) 女性部長あいさつ
 - (5) 座談会
 - (6) 閉会
- 6 座談会の概要

発言者

一人暮らしの高齢者などで、デイサービスに行くまでもない人たちが週一回でも集まれる場所が必要と考える。例えば、高齢者であれば誰もが、1,000円程度の費用で送迎、昼食付きで、遊べたり、ボランティアの人たちから手芸など手先のことを教えてもらったりできる場所があれば、人と人の触れ合いができ、楽しみがもてると考える。

市長

福祉施設的なものの建設については、社会福祉法人や医療法人、NPOなどの力を借りてやっていきたい。

デイサービスに行く前の元気な高齢者の集いの場、楽しい時間を過ごす場とし

では、市民ふれあいセンターがある。市民ふれあいセンターは、会議の場所だけではなく、高齢者誰もが、元気に集まって利用できる、カラオケや入浴施設もある。ふれあいセンターのPRをどんどん形を変えてやっていくことが第一歩と考える。

発言者

ふれあいセンターの施設内容を知らない人も多い。申し込みの方法などをPRし、誰もが気軽に申し込めて、気軽に行けるようにしてほしい。

福祉課長

開所当初は利用者が多かったが、今は減少傾向である。

提言いただいたとおり、改めて、ふれあいセンターの施設概要、利用促進のPRをしてまいりたい。

市長

今、高齢者の憩いの場として、ふれあいセンターを「核」として話したが、各地区にはコミュニティセンターがある。地区の高齢者等がその場で集え、有意義な楽しい時間を過ごせることが、本来のコミュニティセンターのあり方だと思う。各地区のコミュニティセンター利用の周知をしていきたい。

発言者

シニアの集えるまちづくりとして、一つ目は、高齢者が商店街を歩けるような「まちなか散歩」ができるようにしてはどうか。植木のまちをアピールして街なかに花木を植える、カフェテラスを作って、外で座れる場所を作る、商店の方の販売スペースを作る、シニアが外出しやすくする商店街としてはどうか。また、ポケットパーク前に循環バスを止める場所があれば、より多くの高齢者が「まちなか」を利用すると考える。

二つ目として、天神山の桜の種類を多くし、賑わいを創出する。桜の種類によっては、早く咲く花、遅く咲く花があり、今の天神山より、多くの種類の桜を植えてはどうか。植樹については「寄付」してもらうことで費用削減を図る。

三つ目は、山桑メモリアルホールの近くの山林を市として購入し、「樹木葬」ができる場所を作ったらどうか。

市長

高齢夫婦や独居の方々の意見として、全国的にも自然葬という考え方が出てきていることは聞いており、樹木葬、散骨などの自然葬を「市営」という意見は市長への手紙等でいただくが、匝瑳市での条件、財政規模では難しいと考えている。

「街なかで高齢者が集えるような場所」については、行政としては、「憩いの場所・集いの場所」として商店街の空き店舗を利用し、商店街の活性化につながればと考えている。しかし、空き店舗の多くは併用住宅であり、利用の条件として難しい状況がある。憩いの場・テラスなど、気軽に集まれる場は、勉強し検討していく。

なお、ポケットパーク前に循環バスの停留所を設置することは、交差点となるため厳しいと考える。

天神山は「ちいちいの森」もあり、良く行く場所だが、春の桜だけではなく四季折々の花が楽しめる公園にしたいと考えており、担当課には植栽する花木など検討するよう指示している。オーナー制を含め、お金のかからない、通年で遊びに来てくれるような公園にしたいと考えている。

発言者

先ほど、憩いの場として各地区のコミュニティセンターの話があったが、普段コミュニティセンターはカギがかかっている。

各集落単位で「空き家」を活用し、「高齢者誰もが入っていい建物」としたらどうか。建物の色を統一し、一目でわかるようにし、他集落の高齢者も利用できる建物としてはどうか。

市長

アイデアとして頂戴する。

発言者

木積の藤（ふじ祭）を見に行くために、木積の道路が狭い。「道が狭いから」という理由で行かない人が多くいる。花は人が集まる。大勢の人が集まれば、そこでの商売ができ、活性化につながると考える。道は広くならないか。

市長

こうした意見があったことを、建設課へ伝える。

発言者

息子や娘がいても勤める場所がなく、子供が市外に行ってしまう、独居老人となっている人がいる。市に勤められる場所ができないか。

市長

今の市の人口構成を考えると、核家族、独居、高齢者夫婦が多いという状況となっている。若い人に雇用の場がないことは、大きな問題と受け止め、取り組んでまいりたい。

発言者

独居老人のために作った「宅配電話帳」に記載のあるお店に、「募金箱」が置いてある。しかし、配達する店に募金箱が置いてあることを、配達するお店以外の人は知らない。

宅配電話帳の制度自体も知られていないのもっと周知をして、宅配電話帳を持つ独居老人以外でも知られ、「効果がある」制度にしてもらいたい。

市長

宅配電話帳を配布した家庭は独居老人など限定されている。範囲を広げることについては勉強させていただく。

商工会女性部員の中でも、電話帳に記載されている方も多いと思うが、「効果」については、初期の目的が達成できるようにしたいと考えているので、「ああしたら良い」「こうしたら良い」というアイデアを担当課に提案してもらいたい。

また、電話帳の切り替え時には、みなさんの意見をいただいて、より良いものにしたいと考える。

福祉課長

宅配電話帳は「安心生活創造事業」として実施しているが、安心生活創造事業は、国の補助金を活用し、「孤立死を無くす」を目的とし、「独居の生活を支えるための基盤を作る」「事業を継続するための経費を生み出す事業を行う」ことを制度の柱としている。

福祉課と高齢者支援課とで事業推進し、社会福祉協議会へ委託し、事業を実施している。

独居・高齢世帯・障害者世帯にとって、買い物が一番苦勞するのではないかとして、「宅配電話帳」を昨年作成した。「日常生活になんらかの不安を抱く方・支援が必要な世帯」を対象としているため、(要援護者台帳に)登録をした1,200世帯に配付しており、全世帯配布は行っていない。

宅配電話帳については、市民に浸透できるように努力していく。

また、募金箱の設置については、改めて広報していく。

発言者

宅配電話帳を利用したお客さんが「気軽に頼める。良かった」と言っていた。どんどんPRしていただきたい。

発言者

PRの方法だが、広報紙に載せるより、防災無線を使った方が効果があると思う。

発言者

防災無線については、どの範囲まで使えるのか。

市長

防災行政無線は早く、市民に周知できる手段だが、肝心なことは「防災」の無

線であるということ。利用については総務課長より説明する。

総務課長

防災行政無線では、国・県などの災害情報が優先されている。

行政無線としては、市の主体事業でかつ全市的にPRする必要があるものと警察からのお知らせで全市的に放送するものを流している。個々の事業や、地域を限定する情報は流していない。

発言者

防災行政無線の一日の放送を合わせても1時間も無いなんて、もったいない。もっと流していいと思うが。

市長

防災行政無線はやはり「防災」の無線であり、これが鳴った時は「災害時」であると考えてるのが基本であることをご理解願いたい。

発言者

広報紙は新聞折り込みを行っているが、新聞を取っていない世帯への配布はどうしているのか。

市長

郵送で送っている。郵送を希望される場合は、秘書課へ一報願いたい。

発言者

広報の郵送や、宅配電話帳など、まずはシステムを詳しく知っていれば私たちが喋って伝えられるもの。商店の人が喋れば口コミとなりPRできる。

市長

市としてもPRの勉強をしていきたい。また、皆様方へは、広報について、口コミでのPRをお願いしたい。

発言者

広報がカラー化されたが今月号の広報で市民病院の医師が白黒で残念。顔を見て覚えるので、カラーで載せてもらいたかった。

秘書課長

月によってカラーのページ数を変更しているが、ご提案のあったカラーでの掲載内容については、今後検討させていただく。

以上